

トークセッション

＜ヒロシマ 連続講座＞ 第87回

2019年10月19日(土) 13:00～16:00

日本の核開発---原爆反対・原発推進の論理

加藤 哲郎さん (一橋大学名誉教授)



この夏に出た2冊の本も取り上げて、「原爆反対・原発推進の論理」ばかりでなく、最近の「日本の核兵器自主開発の基礎としての原発保持」まで論及したいと思います。

一つはロバート・ウィルコックス『成功していた日本の原爆実験 隠蔽された核開発史』(勉誠出版)で、アメリカに古くからある「日本軍は朝鮮で秘かに原爆を開発し、敗戦直前に核実験を成功させていた」というアメリカ国内でもジョン・ダワーに論破されたフェイクニュース本なのですが、最近の日本核保有論の強まりの中で、ついに日本で翻訳された本です。

もう一つは岸俊光『核武装と知識人 内閣調査室でつくられた非核政策』(勁草書房)です。60年代原発実用化の時期に、実は佐藤内閣が中国原爆実験に対抗して日本独自の核保有計画を検討していた中心が、外務省でも科学技術庁でもなく、内閣調査室による「現実主義」科学者の組織化だった、というものです。

.....加藤先生からのメール

★ 場所；愛恵ビル 3F (公益財団法人愛恵福祉支援財団)

〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1

→JR 山手線駒込駅(東口)から徒歩2分・

または地下鉄南北線駒込駅から徒歩7分

★ 参加費；1,000円 (当日会場で集めます)

★ 会場と資料準備で、事前に申し込みをお願いします

★ 企画・申込先；竹内 良男

電話 = 090-2166-8611 アドレス = qq2g2vdd@vanilla.ocn.ne.jp



第88回

テーマ(仮題) 濟州島四・三事件の闇

2019年11月2日(土) 13:00～16:00

高 二三さん [濟州島四・三事件を考える会 東京]

1948年4月3日、今の韓国・濟州島で起こった島民の蜂起に伴い、1954年9月21日までの間に、島民の5人に1人にあたる6万人が虐殺され、島の村々の70%が焼き尽くされた。この事件は私たちにどんな問題提起としてあるだろうか？